

平成28年3月10日

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会  
会員の皆様へ

## 《3月度農場便り》

### 「暮らしの技と伝承」

未曾有の大災害から早5年、関係者の方々に心よりお見舞い申し上げる次第です。小生が被った1月18日の雪害による2棟のハウス倒壊などはとるに足らないことです。お陰様で2か月近くが経過する中で漸く2棟目のハウスも骨組みが出来、シートを設営できるまでになりました。来週中には完成する予定です。今回の出来事で思うに自然との関係性で成り立つ農業は毎年条件が異なり、その条件、環境に応じて栽培に工夫が必要で、長い間の経験の集積が知見となり、更にその地域の気候風土に即した技となるということ。ところがその地域に根差した技の伝承も農業離れで途切れてしまっているのが現状です。

一方、最近北杜市内には大型の施設栽培のハウス群が茅ヶ岳の麓や甲斐駒ヶ岳の麓に点在するのが目につくようになりました。天候に左右されず安定的に栽培できる施設です。企業化された農業が急速に拡大しております。小生の取り組んでいる自然栽培とは対極の農業です。地域の雇用には多少貢献するでしょうが声高に叫ばれている地方創生、疲弊した地域づくりには役立つとは思えません。今回、組み立て方や様々の道具の使い方等を研修生に教えながらハウスの再建に当り、自然との関係性、地域に暮らす人と人との関係性、更にそこで暮らす技の共有が希薄になっていることを感じたところです。この八ヶ岳の麓の辻林という集落で農業を始めて8年目、この辻林において農業で暮らしていくに当たりまだまだ教えて頂いていない技は多いことにも気が付きました。

100年、200年という長い間の毎年の経験が知見となり技となり、更に地域文化になる貴いことです。ともあれハウスの再建も目途が付きました。お米、野菜の苗づくりを確実に行き美味しく元気な農産物をお届け出来るよう努めます。会員の皆様にご迷惑をお掛けするかと思いますがご理解のほど宜しくお願い申し上げます。自然界の持つ力は侮れません。春に向かい不順な天候が続いています。ご自愛ください。



メール [yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp](mailto:yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp)

携帯080-3080-3017